

# 人生の雑感

前田文典 (高35回)

突然ですが、「用意周到・動脈硬化」「伝統墨守・唯我独尊」「勇猛果敢・支離滅裂」と言う四字熟語をご存じでしょうか？

詳細はネット検索して頂くとし、それぞれ陸上・海上・航空自衛隊の特徴を捉えた言葉として知られています。その中で、伝統が連続と受け継がれる広島県の江田島での生活を皮切りに、約33年間、海上自衛官として勤めました。

## 石の上にも三年！

防衛大学校は横須賀に所在し、1学年約500名、全校で約2000名が全寮制で生活しています。

高校卒業後、不安と期待を胸に、31期生と



江田島海上自衛隊幹部候補生学校庁舎。通称「赤レンガ」1893（明治26）年に建設された。（提供：海上自衛隊）

ちなく動く自分の姿に恥ずかしさを感じていましたが、まさに「石の上にも三年！」今では黒帯を締め、大きな顔をして稽古に参加しています。

## 仕事とプライベートは車の両輪！

海上自衛隊では、艦艇の乗組みだけでなく、航空機の操縦や整備、経理や施設といった16の職域に分かれて関連配置に就いています。

残念ながら志望動機であった操縦士の夢は叶わず、私は航空機の整備や装備品の研究開発に携わる装備幹部の道を進んできました。

近年、自衛隊でもワークライフバランスや女性隊員の更なる活躍が推進され、海上自衛隊のトピックとして、潜水艦への女性自衛官の配置制限が解除されています。配置によっては、任務遂行上、家族との時間に制約を受けることもあります。私の場合はその制約も少なかつたので、学生時代に習得したスキルを發揮し、家事や育児にも積極的に取り組んできたと自負しています。妻がどう感じているかわかりませんが……。

## 何事にも挑戦！

自衛隊の精強性を保つために、多くの自衛官は50代半



●また・たけのり  
大鹿村出身。防衛大学校卒業後、海上自衛隊に入隊。現在、防衛省南関東防衛局調達部次長。八戸や那覇基地、市ヶ谷防衛省等にて勤務。1997年筑波大学大学院修了。趣味は空手で、週に数回、妻と共に修行中。

して入校しました。ちなみに、未確認ですが、自衛隊では3人目の飯田高校出身者と聞いています。

当時の外出は土曜の午後から日曜と休日のみ。外泊は2学年になって許可されました。特に1学年の時は、同学年のみとなる授業中を除き、起床から消灯まで上級生による生活上の厳しいチェックが待っていました。お陰様で、料理以外の掃除、洗濯、アイロン掛けのスキルは格段に向上し、今でも家事において役立っています。

自由だった高校時代とは異なり、多くの制約の中で時間に追われる毎日でしたが、1年が過ぎ、2年が過ぎ、3年も我慢すればそれなりに快適な生活を送れるようになりました。

35歳になって意を決し、長男と共に空手道場に通い始めました。昇級審査などでは多くの親御さんがビデオカメラを構える中で、真新しい白帯を締め、汗ダクでぎこばで定年を迎えることになりました。一昨年末には、知見を豊富に備えた人材の一層の有効活用を図るため、定年年齢を引き上げることが決定され、今年の1月以降、段階的に1年の定年延長が行われています。

幸か不幸か私は対象外となるため、これまでの基準に従ってまもなく定年を迎えることとなります。このような事情もあって、当初、「ジャンケンで！」との話もありましたが、第二の人生への弾みとすべく、在京同窓会幹事長の役を引き受けることを決意した次第です。

55歳になる学年を幹事と決めたのは、在京同窓会が始まった当時、55歳が「定年」という節目を迎える年であったことが理由のようです。まさに名実共にその趣旨に合致したかたちでの担当は、そもそも私の運命であったのかもしれない。

「人生百年時代」と言われる中で、我慢はほどほどにしつつ、これからも様々なことに挑戦し、仕事とプライベート、即ち人生の両輪をきちんと回していければと考えています。

本稿を執筆中の5月現在も、新型コロナウイルスに対する警戒に気を抜けない状況ですが、総会が従来どおり開催できるようになること、また第2の人生が円滑にスタートできることを切に願っています。